

令和7年度 県立勝田特別支援学校 自己評価表

No. 1

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
目指す学校像 ◆笑顔とあいさつにあふれた学校 ◆保護者・地域から信頼される学校 ◆地域の特別支援教育の発展に貢献できる学校				
	児童生徒による授業評価 <成果> ・授業がよくわかる・ 大体わかる児童生徒 90.6% <課題> ・学校研究を核とする 教員の専門性や授業 力の向上	1 未来への学び	①【学校研究テーマ】主体的な学びクエスト（探求）～授業のレベル上げにチャレンジ～ ②【訪問教育(茨城東病院)】算数・数学科授業の推進 ③【キャリア教育】小学部1年から高等部3年までのキャリア教育の推進と整理 ④【カリキュラムマネジメント】単元配列表の運用	
		2 安心安全	⑤【安心から学びと自信へ】児童生徒による授業評価 アナログ(相談BOX)・デジタル(オンライン相談)両面の児童生徒支援 ⑥【保健・給食】安全な給食体制 ⑦【防犯・防災体制】不審者侵入防止の防犯体制 大地震を想定した避難訓練・引き渡し訓練	
	キャリア教育 <成果> ・学校全体の方向性の 整理 <課題> ・地域との協働活動の 評価	3 交流及び共同学習	⑧【コミュニティ・スクール】地域との協働活動の評価の実施 ⑨【交流及び共同学習】「合理的配慮個人支援シート」を活用した居住地校交流 ⑩【地域ギャラリー】地域の方々との作品交流(校内・校外) ⑪【校内ペア学年】部を超えた交流	
		4 総合支援	⑫【地域への支援体制】関係機関と連携した児童生徒の支援体制の充実 新事業の推進と準備 小学校・中学校・高等学校のニーズ把握 ⑬【校内支援】教育相談の理解推進(部会等での係による紹介)	
		5 高い専門性	⑭【学校研究の取組】①外部講師による講演 ②教員同士の語り合い ③模擬授業 ④実践・振り返り・実感 ⑮【ICT活用】活用の日常化 ⑯【働き方改革】業務効率化の検討 ⑰【福祉事業所合同説明会】関係機関との連携強化	
	6 教職員の行動指針	⑱教育公務員としての誇りと高い倫理観 ⑲笑顔とあいさつにあふれた学校づくり ⑳チームとしての支え合い学び合い		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・児童生徒による授業評価 A(よく分かる)・B(大体分かる)の合計90%超	・学校研究(テーマ:「主体的な学びクエスト(探求)～授業のレベル上げにチャレンジ～」)を核とした教員の専門性や授業力の向上	1-①⑤⑭ ⑮⑯		
学校経営 管理 教育計画	・大地震・不審者等の避難 訓練年5回、保護者等への 引き渡し訓練年1回	・防災安全係を中心に計画立案して実施し、12月に学校防災 連絡会議を開催して各避難訓練等について検証	2-⑦		
教職員の 育成及び 指導・監督	・学校全体のキャリア教育の 構築(いつ、何に取り組む のか) ・校内研修をとおして全教員 が授業づくりの楽しさを 実感 ・起案文書等への校長からの 感想・感謝記入による人財 育成	・本校が目指すコミュニティ・スクールとキャリア教育の「見 える化(図式化)」 ・①外部講師講演会「主体的な学びとは?」→②教員同士 の語り合い「楽しかった授業を語り合おう」→③模擬授 業→④実践、振り返り ・教員の自己有用感・自己肯定感を高める人財育成を目的に、 起案文書等に校長からの感想や感謝等を記入 ・個々の教員に応じた文章内容に努める	1-③ 3-⑧ 1-① 5-⑭ 1-① 2-⑤		
対外活動	・コミュニティ・スクールと 関連づけた地域協働活動 10回以上 ・新聞社等マスメディアへの 情報提供10回以上	・学校運営協議会等における検討 ・地域との協働活動・職場体験等における児童生徒の意識や 行動変化の評価 ・積極的な教育活動の情報提供、新聞社等の記者と良好な人 間関係の構築	3-⑧ 3-⑧		
コンプライア ンス確保	・年1回全教員が自分の言動 を振り返る機会をつくる ・若手教員(初任者・2年次 ・3年次)の退職者0名、 教員不祥事0件	・本県作成の「人権感覚チェックリスト」を8月に実施し、 集計・分析を行う ・校長との定期的な面談を年2回(①7～8月、②12～1月)、 日頃から校長・教頭からの積極的な声かけを行う ・風通しのよい職場づくりを目指し、日常的に校長室のドア を開けておくことで情報がスピーディーに校長室に集ま りやすくし、教員不祥事の未然防止につなげる	2-⑤ 6-⑱ 2-⑤ 6-⑱		

働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員の時間外在校等時間が、月 45 時間以内かつ年間 360 時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業準備に注力できるための事務的業務の改善・効率化 早出勤務の新設、退勤時間の徹底 	5-⑯ 5-⑯		
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が日常的に ICT 機器を活用した授業実践 担当教員の校務支援システムの理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価に係る授業観察において、ICT 機器活用を必須として設定する。 係会における伝達講習 	1-① 5-⑮ 1-① 5-⑯		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない